

■テーマ展

岩手の遺跡を守った人たち—小田島禄郎を中心に—

会期：平成21年7月18日(土)～8月30日(日)

会場：特別展示室

日本の近代考古学は、1877（明治10）年E.S.モースの大森貝塚の発掘調査から始まります。そして、1919（大正8）年の史蹟名勝天然紀念物保存法施行以降、全国的に史跡指定に関する調査が行われるようになりました。岩手県においても、今日の考古学の礎を築いた先駆者たちが数多くいます。その中で、大正から昭和にかけて最も精力的に活動した小田島禄郎を中心に、保存された史跡や収集物（小田島コレクション）を紹介いたします。

I 小田島禄郎と交流のあった人たち

小田島禄郎は、1881（明治14）年県北にある旧浄法寺町（現二戸市）で生まれました。22歳で岩手師範学校を卒業後、教員を務める傍ら1953年に72歳で亡くなるまでの30年以上にわたって、考古学と郷土史の研究に情熱を捧げ、多くの業績を残しました。

彼の業績の1つでもある史跡の保護・保存の実現には、岩手県の考古学研究者や地元関係者はもちろん、県外の大学関係者など様々な人たちが携っています。

当時の内務省の史蹟名勝天然紀念物調査会考査員だった柴田常恵を始め、京都大学の喜多貞吉や梅原末治、東京大学の小金井良精・八幡一郎、東北大学の長谷部言人・山内清男などの大学の研究者や小田島と同じ岩手県史蹟名勝天然紀念物調査会委員だった菅野義之助、大山柏公



蛸ノ浦貝塚



小田島禄郎氏

爵など、そうそうたるメンバーとの交流が当時の新聞記事や書簡から窺えます。

II 史跡調査

1 気仙地方の史跡調査

前述の保存法施行を受けて史跡指定調査が盛んに行われる中、1920（大正9）年に岩手県史蹟名勝天然紀念物調査会が設立されます。小田島は1923（大正12）年に調査会委員に任命され、活発な調査活動を開始します。

彼は史跡指定候補として気仙地区の貝塚に注目し、委員に任命されたその年、地元研究者の鳥羽源蔵や菅野義之助と共に内務省考査員の柴田常恵を案内しました。柴田が目にしたのは、ほとんど調査されていなかった保存状況の良好な遺跡でした。その1つは、「全国屈指」とまで柴田が言った蛸ノ浦貝塚（大船渡市）、優品が多量に出土した下船渡貝塚（同）そして中沢浜貝塚（陸前高田市）でした。これらの貝塚は後に国の指定史



中沢浜貝塚

跡となります。一度に同一郡内で複数の遺跡が指定されることは非常に珍しいことでした。

後に小田島は、この時の調査の様子を新聞記事に連載しています。調査期間中の超過密スケジュールだった状況や下船渡貝塚がこれまでなぜ破壊されずに保存されていたのか、など当事者以外では知りえないことがユーモア溢れる文章で書かれており、大変興味深いものです。

2 県南地方の洞穴調査

小田島は翌年の1925（大正14）年8月に県南・気仙地方の洞穴・貝塚の踏査に同行します。来県したのは、前述した小金井良精、八幡一郎、長谷部言人、公爵大山柏らです。彼らは旧東山町（現一関市）の女神洞穴と熊穴洞穴、また大洞貝塚（大船渡市）と二日市貝塚（陸前高田市）などを調査しました。

また、これに先立ち同年4月に小田島は東北大学の山内清男と大洞貝塚の発掘調査を行っています。山内は後に、この時の資料などを基にして、縄文時代晩期の亀ヶ岡式土器を大洞式の名で型式設定するという大偉業をなしました。

III 小田島コレクション

1 雨滝遺跡（二戸市）

現在、小田島コレクションとして県立博物館に収められている資料点数は2万点を超えています。これらの資料は、小田島が長い間県内外を問わず収集した土器や石器、骨角器などの他に、獣骨・貝類などの自然遺物、また瓦や古銭、ガラス乾板など、縄文から近代に至るまで多種多様にわたっています。その中で特筆すべきは雨滝遺跡で収集した資料です。

雨滝遺跡は、青森県境の大きく蛇行した馬淵川沿いの舌状の台地上にあります。その地形の特徴からかつては舌崎遺



雨滝遺跡

跡と呼ばれていました。縄文時代晩期の遺跡で、明治時代には珍しい土器や土偶を出土する遺跡として既に知られていたようです。

小田島もこの遺跡には特に強い関心を持っていました。当時古代の遺跡を調査していた彼は、1923（大正12）年に旧金田一村（現二戸市）を訪れ、雨滝遺跡を発見しました。遺跡の保存状態や遺物の出土状況、出土量や特徴などから遺跡の重要性を唱え、県に保存要請も申し出ています。良好な返答がないまま、1926（大正15）年に鉄道工事に伴って遺跡が破壊されるということがおきました。この時に数多くの遺物が散逸し、一部が研究者に持ち去られたことを知った小田島は、大変残念に思い、同年の夏と秋に残存状況の確認のため調査を行っています。この調査で、彼は膨大な遺物を発見し、調査成果から遺跡の特徴として17項目にまとめ、県に報告書を提出しました。そして、再び遺跡保護の方策などについて触れています。この時の調



収集土器（雨滝遺跡ほか）

査で収集した資料はまさしく優品です。

2 その他の遺跡

小田島が収集した資料は、全体として縄文時代後～晩期のものが多く、同時期の雨滝遺跡のほか、北上市臥牛遺跡の発掘（1926・1927年）で収集した資料にも優れたものがあります。また、尋常高等小学校の教員として、県内各地に赴任していますが、その先で遺跡の調査を行い、出土した資料を収集しています。また、県外への出張先でも周辺の遺跡などの調査収集を行っています。

出土遺物のほか、小田島コレクションの中には当時の小田島が調査時に作成した図面類があります。現在の奥州市にある五位塚の平面図や女神洞穴の実測図、関谷洞穴の実測図などもあります。現在の写真と比較すると、破壊などによりなくなっているところもあり、大変貴重な資料といえます。

IV 遺跡の保存活動と普及活動

小田島の調査は、あくまでも保存のためのものでした。そのため発掘調査は遺



実測図面類（五位塚）

跡の規模や性格を知ることが第一の目的でした。様々な書簡をとおして、彼の一貫した姿勢をみることができます。

1925（大正14）年に奥州市（旧江刺市岩谷堂）で開かれた展覧会は、若き考古学研究者たちはもちろん考古学を知らない人たちにも好評だったようです。縄文時代から近世までの遺物や美術品を集めた展覧会で、岩手日報紙上でたびたび取り上げられています。5日間で見学者は数千人が訪れたらしく、現在のように容易に展示物を目にするのなかった当時としては、刺激的で強烈な印象を与えた展覧会となったはずで、こうした活動は、身近にある遺跡保存を理解してもらう一歩に繋がったことでしょう。

小田島禄郎をはじめ、先達たちが後世に文化財を残さんとすべく、情熱を捧げ奔走し奮闘したからこそ、今日の考古学の発展とともに素晴らしい先人たちの遺物を私たちは目のあたりにすることができるのです。

（主任専門学芸員 木戸口俊子）



石鏃（出土地不明）

展示解説会 場所：特別展示室 14:30～15:30 ①7月20日（月・祝） ②8月16日(日)
 日曜講座 7月26日(日) 13:30～15:00 場所：教室
 「大正から昭和初期の岩手の考古学—小田島コレクションから—」
 講師：佐々木務氏（岩手県埋蔵文化財センター）
 いわたの博物館交流セミナー 8月2日(日) 13:30～15:00 場所：講堂
 「考古学の黎明期と岩手」 講師：高橋信雄氏（花巻市博物館長）
 考古学セミナー
 8月8日(土) 13:30～15:00 場所：講堂
 講演会「岩手の考古学のあゆみ」 講師：熊谷常正氏（盛岡大学教授）
 8月22日(土) 日帰りバスツアー 要事前申込み ※詳細はお問い合わせください。
 現地見学会 豊岡遺跡（岩手町）、御所野遺跡（一戸町） 他